

令和 3 年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般財団法人松本市芸術文化振興財団		
施 設 名	まつもと市民芸術館		
助 成 対 象 活 動 名	公演事業		
内 定 額 (総 額)		34,137	(千円)
	公 演 事 業	34,137	(千円)
	人 材 養 成 事 業	0	(千円)
	普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	TC アルププロジェクト Phase2 ・Vol4	2021 年 8 月 25 日～29 日	『パレード、パレード』 構成・演出・美術：杉原邦生、 出演：近藤隼、武居卓、深沢豊ほか	目標値	630
		まつもと市民芸術館 小ホール		実績値	309※
2	『白い病気』	2021 年 10 月 8 日～11 日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,260
		上土劇場		実績値	0※
3	まつもと市民芸術館レパートリー作品『新作』	2022 年 3 月 12 日～16 日	『KING LEAR-キング・リアー』 演出：木村龍之介、 出演：串田和美、岩崎 MARK 雄大、 大山大輔ほか	目標値	630
		まつもと市民芸術館 小ホール		実績値	910

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

まつもと市民芸術館の令和３年度の重点的な取り組みと芸術監督の指針、松本市文化芸術振興基本方針のもと、クリエイションを実施した。松本らしさの１つである多くのイベントの創出、市民が優れた文化芸術に触れる機会の創出に寄与した。

事業番号１『TC アルププロジェクト Phase2・Vol4』:

まつもと市民芸術館を拠点として活動する TC アルプを中心に行う定期的なクリエイションは、松本市芸術文化振興基本方針２・分野方針Ⅲにあるように文化の発信に必須である人材の養成と確保に寄与した。演劇界で活躍する演出家を招き、松本限定の公演であったために、県外からの観客も多く、出演者にミュージシャンが多く参加したり、出演者一人ひとりの人形を作ったりと、非常にクオリティの高い作品となった。

※創造性ページのアンケート参照

事業番号２『白い病気』:

パンデミックを題材とした作品であることや、市民コーラスの参加を予定していたが、「新型コロナウイルス」の収束がみられないため、市民感情も慮り、本作品の上演は中止とし、コンセプトを変え、別作品を上演した。

事業番号３『まつもと市民芸術館レパートリー作品『新作』』:

新型コロナウイルスの状況に対応すべく、まつもと市民芸術館の令和３年度の重点的な取り組みに基づき、レパートリー作品の制作を行い、地産地消の作品を作り松本から国内へ発信した。地産地消を目指すにはスタッフを増やし、スキルを上げることも必要である。出演だけでなく、スタッフの県内確保の方向性も探ったが、コロナ禍で廃業する事業者が予測を超えて多く、さらに深刻な状況が露呈した。

2 令和３年度の重点的な取組み

(１) 松本からの文化の発信力をさらに高め、新型コロナウイルス感染症の状況により、県を超えた移動等が制限される場合にも備え、レパートリー作品を制作します。

(２) 開かれたロビーという芸術館の空間特性を生かした「シアターパーク」企画を立ち上げ賑わいのある劇場を目指します。

(３) 芸術性の高い作品から娯楽性のある作品まで、幅広いジャンルの公演を提供します。

また、引き続きレクチャーやワークショップの開催のほか、広報誌「幕があがる」等の充実も図ります。

(４) 事業の実施に当たっては、各種の補助金、助成金の取り込みに務めるほか、県内外の施設と連携しつつ、効率的な運営を目指します。□

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

公演を開催する前にレクチャーを行い、観客へ作品に対する理解を深めてもらい、馴染みのない戯曲に対しても親しみを与えた。また、大学生にも気軽に演劇を観てほしいと思い、クリエイション作品では毎年、信州大学の学生に対して特別価格（U-18 と同じ価格）を設定している。本助成があつてこそ、次世代への観客育成へもつなげることができると思う。

事業番号１『TC アルププロジェクト Phase2・Vol4』: 本公演は 100%から 50%への客席の変更、また演出の都合上舞台の張り出しを行ったことにより、当初の目標値を達成することができなかったため、来場者数が伸びず、経済的効果はあまり認められなかった。本作品には「まつもと演劇工場」卒業予定の生徒たちもオーディションワークショップに参加した。TCアルプメンバーのみだと、人数も含め戯曲の選定が限定されたが、これにより作品の幅を広げることができ、地産地消の作品作りを強化することができた。

事業番号３『まつもと市民芸術館レパートリー作品『新作』』:

メインビジュアルに串田和美を全面に押し出し、広報を展開した。広報宣伝方法の新たな取り組みとして、近隣の住宅へポスティングチラシによる宣伝を行い、市民への周知を広めた。松本限定の公演で連日ほぼ満員と盛況であったため、地域への経済的波及効果が認められると考える。また、再演可能なレパートリー作品を制作することにより、今後も短期間の稽古で、低予算で上演することが可能となった。

	一般	U18	販売計	招待	合計	販売率	客席消化率	定員
3/12(土)14時	160	16	176	7	183	97%	101%	182
3/13(日)14時	173	9	182	4	186	100%	102%	182
3/14(月)18時30分	145	8	153	4	157	84%	86%	182
3/15(火)14時	181	1	182	9	191	100%	105%	182
3/16(水)14時	185	4	189	4	193	104%	106%	182
合計	844	38	882	28	910	97%	100%	910

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1、地産地消の創造舞台の発信

当館を拠点に活動する TC アルプと演劇工場卒業生は、継続的な活動により応援してくれる住民も多い。松本市以外でも、令和2年助成対象であった『じゃり』演出家小川絵梨子氏のリーディング公演への出演、杉原邦生氏演出の神奈川県立劇場作品や東急文化村作品に客演が決まっているメンバーもいる。地域に根差し、地産地消の創造舞台を創作・発信することは、長期化するコロナ禍において地方の創造発信劇場として存在を示すことには必要不可欠である。引き続き、生活と舞台芸術がまちの中に溶け込み、市民の誇りを醸成しながら演劇のまちとしてのブランド化を推進し、芸術文化があふれる魅力ある地域づくりを目指していきたい。

2、レパートリー作品の制作

令和3年度『パレード、パレード』、『KING LEAR-キング・リアー』は松本限定の公演で、松本ならではの創造舞台を作ることができたと考える。『パレード、パレード』は現在海外からもオファーがあり、『KING LEAR-キング・リアー』は県内外からの観客によって連日ほぼ満員という結果となった。出演者は TC アルプのメンバーなど松本市出身者や在住者を中心に構成し、今後も比較的短期間の準備での公演可能なレパートリー作品として有効な作品を創造できた。

3、地域コミュニティと協働した事業展開による地域活性化

当初交付申請時には市民で形成されたコーラスを想定していたが、令和3年度は松本市も昨年に比べて爆発的に感染者が増えた影響により、出演者として、一般市民が参加することは難しく公演は中止とした。『KING LEAR-キング・リアー』の観客としての来場はもちろん、TC アルプや工場生と共に連携を取りながらチラシやポスター配布の宣伝、公演当日の場内スタッフ等幅広い分野で市民の協力を得た。出演者としての参加は難しい面もあるが、地域コミュニティの活性や街のにぎわいを創出している。コロナ収束後は、様々な地域の飲食店、市民団体、コミュニティとも協働して地域に広がりのある事業を展開、劇場や芸術文化が人や地域を繋げることで、さらなる地域活性化を目指していきたい。

■TC アルプに興味・関心を持って来場した観客数の増加

『TC アルププロジェクト Phase2 ・Vol4』において、アンケート結果/出演者に興味を持って来場した観客率は71%だった。また、TC アルプの公演を以前観劇したことのある観客率が61%と半数以上の観客がリピートしている。『KINGLEAR』でのアンケート結果においても TC アルプの名前が複数上がった。

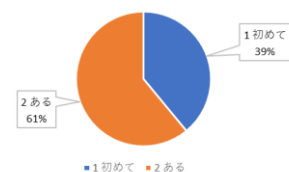
■短期間で準備できる作品作り

『KINGLEAR』では、レパートリー作品とするために、大がかりな大道具は作らず、小道具や衣装でみせるというコンセプトで上演した。

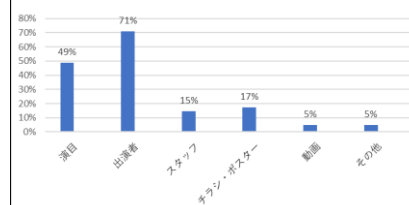
■市民参加公演、企画の増加

感染者の少ない地域ではあるが、風評被害などリスクは大都市に比べて大きい。そのため市民キャストやコーラスを多く集めて公演することはできなかった。だが、公演においてボランティアという形で参加していただいた。*ボランティアに関しては、創造性のページを参照のこと。

これまでTCアルプの公演を
観たことがありますか



興味を持たれた理由は何ですか？



『パレード、パレード』
来場者アンケート集計結果より

(3) 効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。 事業番号 1 『TC アルブプロジェクト Phase2 ・Vol4』: 2021 年 8 月 25 日～29 日(全 5 回) → 当初計画通り 事業番号 2 『白い病気』: 2021 年 10 月(全 5 回) → 中止 新型コロナウイルスの感染拡大のため、事業が中止となった。 事業番号 3 『まつもと市民芸術館レパートリー作品『新作』』: 2022 年 2 月(全 5 回) →2022 年 3 月 12 日～16 日(全 5 回) 当初未定だった演目や演出家が決定し、その後演出家のスケジュールとの兼ね合いにより、事業期間が変更になった。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。 事業番号 1 『TC アルブプロジェクト Phase2 ・Vol4』: コロナ感染状況を鑑みて、客席を 1 席飛び(50%)設定としたため、収入は当初予定 2,380 千円に対して 1,103 千円(46%)となった。稽古場運営は必要最低限な人数で行い、プランナーとの打合せも極力リモートで行うなど、感染対策とともに経費を節減した。照明も劇場の機材以外はほぼ使わないプランになり、機材費は大幅に減少した。その他の経費も感染対策以外は極力節減し、当初予定の 8 割ほどに収めた。 事業番号 2 『白い病気』: 新型コロナウイルスの感染拡大のため、演目を変更。本事業は中止とした。 事業番号 3 『まつもと市民芸術館レパートリー作品『新作』』: レパートリー作品の構築というコンセプト通り大道具等は極力減らすプランができ、順調に進行していた。しかしオミクロン株の感染が拡大する時期と重なり、出演者が数名感染した。そのため、PCR 検査をキャストスタッフともに毎週行い、本番時運営にあたる市民ボランティアも全員抗原検査を行った。稽古場や劇場楽屋にも感染対策をより強化するためのアクリル板の設置等当初予定していなかった物品の購入などを行ったため、経費が若干オーバーする結果となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】

まつもと市民芸術館の文化拠点としての資源

(1) 芸術監督

クリエイションは芸術監督である串田和美の指針のもと行われている。串田は、自由劇場主宰、シアターコクーンの前代芸術監督の後、2003年以降松本で活動を続け、「信州まつもと大歌舞伎」では市民キャストの起用、「空中キャバレー」では市民協働・地域密着の作品を作り続けている。2016年からは、長野県芸術監督団（演劇）や信濃毎日新聞メディアガーデン企画プロデューサーも務め、市内にとどまらず、また官民を超えて活動。まつもと市民芸術館もその活動により2016年地域創造大賞を受賞した。

・串田和美受賞実績：2007年第14回読売演劇大賞最優秀演出賞受賞。08年紫綬褒章、13年に旭日小綬章。

15年シビウ・ウォーク・オブ・フェイム。

(2) 専属団体、提携団体

TCアルプ：松本に移住し、まつもと市民芸術館を拠点として活動している演劇集団。毎年1、2本彼らを中心としたTCアルププロジェクトを上演。串田はもとより白井晃、小川絵梨子、森新太郎など気鋭の演出家を招き、クリエイションを行っている。2018年には朝日新聞の「地域の劇場をたどって」にも取り上げられ、県内外からも上演のオファーがあり、知名度とともに松本発の文化発信を担っている。

まつもと市民芸術館ボランティアの会：自主事業のロビー運営は外部委託せず、ボランティアの会が行っている。

ボランティアは現在68名。新規入会したボランティアのための研修会開催のほか、職員とともに避難・消防訓練にも参加している。当日運営のほかにも、劇場スケジュールガイドの発送作業にご協力いただくなど、劇場を支えている。

1 ボランティアの活動状況(令和3年4月～令和4年3月)

(1) まつもと市民芸術館自主事業公演サポート

ア 参加人数

活動募集演目数	活動公演回数	参加者数	延べ参加人数	公演1回あたりの参加人数
15 (8)	35回 (6回)	43名 (49名)	213人 (50人)	6人 (8.3人)

※（ ）は前年度の実績値

(3) 創造活動に関する建物設備等

当館には主ホール、小ホール、そして1800人収容可能な主ホールの舞台上に「実験劇場」というもう一つの劇場がある。舞台の中の劇場という他に類を見ない空間である。

【視点2】

(1) 公演、人材養成、普及啓発の企画内容、芸術性

① 公演の企画内容、作品の芸術性の高さ、特色

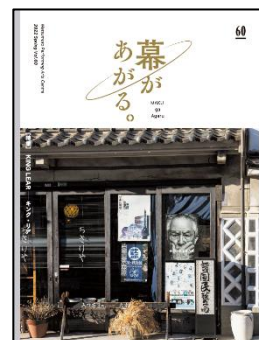
「TCアルププロジェクト Phase2・Vol4 パレード、パレード」:

このプロジェクトでは日本でもトップレベルの演出家を招聘し、最低でも二年かけて必ず、地域でワークショップを行い、クリエイションを行っている。

(2) 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信

HPに過去公演をアーカイブ化している。Twitter、Facebook、InstagramなどのSNSの活用もしているが、年3回発行している広報誌（各回7,000部発行）は単なる劇場の宣伝という枠を超えた文化情報誌として高い評価を得ている。その内容はWebにて電子版を閲覧できるようになっている。

新型コロナウイルス禍であり、当初予定していた全国から参加者を募って行うワークショップは開催が難しかった。



自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演アンケートより一部抜粋

・生の演劇、生演奏、この感覚が久しぶりで胸が熱くなりました。/・とてもよかった。音楽、俳優の生の声、近くで感じ取れた。/・舞台美術と音楽がとても美しかったです。あちらこちらに目線を持っていかれ良い意味で忙しい。沢山のしかけに驚かされました。/・串田さん、TC アルプが好きなのでよく足を運んでいます。皆さまの成長が楽しみです。/・照明や音響との調和が非常に心地良かったです。こんな素晴らしい劇を割引価格でみせていただき、本当にありがとうございました。/・事前にレクチャーを受けていたので、内容は想像していたのですが、想像をこえていて上演時間があつという間に終わってしまいました。/・なかなか東京に行けないので 貴重な体験でした。/・コロナ禍の中、なかなか劇場に来られず、今回数年ぶりに来館できました。/・地元の演劇文化が育つこと、市民としてうれしく思いました。/・シェイクスピアの重厚な芝居をコロナ禍にもかかわらず東京でなくても見られて良かった。/・過去にテンペスト、マクベス、ハムレットを観ています。是非オリジナルのシェイクスピアシリーズを全作品の上演を期待します。できれば、カクシンハン+TC アルプで/・かねてより観たかった木村さん演出のシェイクスピアを松本で観ることができてとても嬉しい。/・足を運んで生で同じ空気で観ることは何にもかえがたいです。これからも楽しみにしています。/・松本でカクシンハンの演劇を観ることができて、本当によかったです。/・小さいホールならではの臨場感。夢中で観ていました。/・松本で本格的な演劇を観られてありがたい。/・シェイクスピア演劇が地方で見れて良かった。これからも様々な演劇を上演してください。

上記にあるように、コロナ禍においても、クリエイションを行い、上演することにより、県内の地域住民らへ気軽に一流の文化芸術に触れる機会を創出することができたと考える。

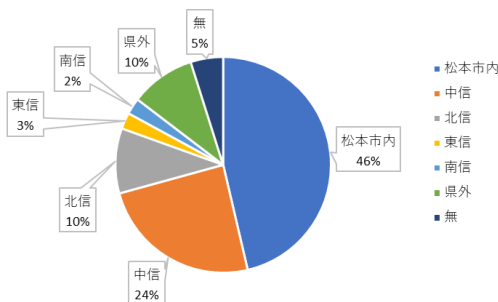
アンケート感想

・生の演劇、生演奏、この感覚が久しぶりで胸が熱くなりました。
・題材が死を扱っているのだが、最近身近に死を感じる事があり、自分に置き換えて考えてしまった。音楽とのバランスが素晴らしい。
・とてもよかった。音楽、俳優の生の声、近くで感じ取れた。
・すぐおもしろかったです。TCアルプの公演も今後また見てみたいと思います。
・ぐう話的でありながら、リアルな社会の反映も見られ面白かった。
・人と人が一緒にいることの尊さのようなものを感じました。最後の「おーい」にぐうときて泣きそうになりました。
音楽もとても良かったです。
・舞台美術と音楽がとても良かったです。あちらこちらに目線を持っていかれ良い意味で忙しい。沢山のしかけに驚かされました。
・話はよくわからなかったけど、登場人物がとても正直で、表面に過ごしているように見えて、自分と重ねて楽しかったり、比べてうらやましくなったり心が動かされた。不思議な作品でした
・TCアルプのこれからさらに期待できる作品でした！
・原作「死の教室」を知らずとも楽しめた。大勢のシーンはテンポよく、個々のシーンは情緒ある間を取っており、時間があつという間に過ぎた。
・少し難しかったですが、存在について考えさせられました。また、重すぎないところもいと思いました。
・出演者の全員の方が、みんな顔がはっきりわかるくらい、キャラクターが立っていて、いちいちおもしろかったです。
・串田さん、TCアルプが好きなのでよく足を運んでいます。皆さまの成長が楽しみです。
・照明や音響との調和が非常に心地良かったです。こんな素晴らしい劇と割引価格でみせていただき、本当にありがとうございました。
・事前にレクチャーを受けていたので、内容は想像していたのですが、想像をこえていて上演時間があつという間に終わってしまいました。

● 感想 自由記入欄 (一部)

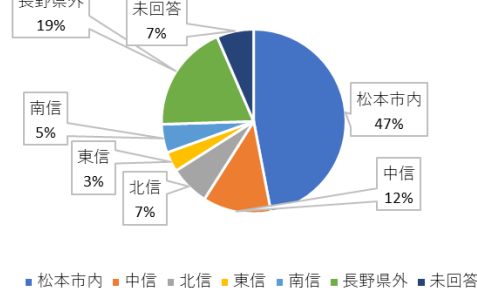
なかなか東京に行けないので 貴重な体験でした。
コロナ禍の中、なかなか劇場に来られず、今回数年ぶりに来館できました。
TCアルプの催し物をみたい
地元の演劇文化が育つこと、市民としてうれしく思いました
串田さん、これからも最前線で松本の演劇を支えていてください。空中キャバレーがみたい
シェイクスピアの重厚な芝居をコロナ禍にもかかわらず東京でなくても見られて良かった
TCアルプとてもよかった。過去にないほど
再演してほしい
過去にテンペスト、マクベス、ハムレットを観ています。是非オリジナルのシェイクスピアシリーズを全作品の上演を期待します。できれば、カクシンハン+TCアルプで
かねてより観たかった木村さん演出のシェイクスピアを松本で観ることができてとても嬉しい
空中キャバレー楽しみにしています
とにかく上演できる環境に感謝ですね
フェスタ松本で「オレたちの真夏の夜の夢」を観てとても良かったので来ました。
足を運んで生で同じ空気で観ることは何にもかえがたいです。これからも楽しみにしています。
小ホールでの演劇をたくさんやってほしい
松本でカクシンハンの演劇を観ることができて、本当によかったです。
小さいホールならではの臨場感。夢中で観ていました。
松本で本格的な演劇を観られてありがたい。
少ない人数で効果的に舞台が出来上がっていた
シェイクスピア演劇が地方で見れて良かった。これからも様々な演劇を上演してください。

お住まいはどちらですか



「パレード、パレード」
アンケート

居住地



「KING LEAR-キング・リアー」
アンケート

「TCアルプロジェクト Phase2・Vol4 パレード、パレード」を信濃毎日新聞の芸能文化欄にある芸能コラムの1つである「芸能見聞録」に取り上げていただいた。

また、「KING LEAR-キング・リアー」公演時には、大学や研究機関等でシェイクスピアの研究をしている方から複数お問合せをいただき、作品を多くの方から注目をしてもらえたと思う。

一般や小・中・高校生などの文化、スポーツ活動に対する助成、文化や社会貢献などに著しい実績を上げた県民を表彰する「信毎賞」をまつもと市民芸術館総監督である串田和美が受賞した。まつもと市民芸術館開館以来、今日まで館長や芸術監督、総監督として、市内から県内各地で演劇を上演し、信州の文化振興に貢献した。

公演名 TCアルプロジェクト「パレード、パレード」		公演日 2021年8月25日～8月29日	No. 210917-1
掲載紙名 信濃毎日新聞	掲載日 2021年9月17日 金曜日	市 信濃市	共催 信濃市

公演名 第29回信毎賞(串田和美)		公演日 年 月 日～月 日	No. 220603-
掲載紙名 信濃毎日新聞 26面	掲載日 2022年6月3日 金曜日	市 信濃市	共催 信濃市

公演名 第29回信毎賞(串田和美)		公演日 年 月 日～月 日	No. 220603-
掲載紙名 信濃毎日新聞 1面	掲載日 2022年6月3日 金曜日	市 信濃市	共催 信濃市

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

●人材

松本市 100%出資の一般財団法人松本市芸術文化振興財団が運営をしている。同財団は、芸術館のほかに 4 つの劇場・美術館を運営しているが、人事異動は過去 1 回のみである。労働契約法の改訂に伴い、雇止め法理が定められ、職員の長期的なビジョン形成とクオリティの向上のため、5 年以上勤続する嘱託職員を本人の承諾を得て、無期労働契約へと転化させている。そのため今後は財団内の異動も行われ、各館のスキルの向上が期待できる。現在の人員配置は、総監督 1 名、支配人兼事務長 1 名、プロデューサー 1 名、総務 2 名、貸館 5 名、企画制作 5 名、広報 1 名、票券 1 名、舞台技術 13 名である。（業務委託、派遣を含む）

職員のコンプライアンス、コスト意識の向上を図るため、各種研修を実施している。また、外部で開催されている人材交流プログラム・研修へ参加している。

臨時職員及び契約職員については、財団嘱託職員としての雇用転化を個人の能力や実績に応じて適宜行っている。

* ボランティア組織に関しては、創造性のページを参照のこと。

●財務

過去 3 年間は、安定して推移している。（令和 3 年度は決算中）

(令和3年11月1日現在)									
財務状況									
		平成30年度	平成31年度 (令和元年度)		令和2年度			過去3年間の平均値	
				対前年比		対前年比	(増減)		
収入	計	680,311	670,235	98.5%	598,188	89.3%	(72,047)	649,578	-
支出	計	656,481	657,633	100%	576,354	88%	(81,279)	630,156	-
収益率(%)		103.6%	101.9%	-1.7P	103.8%	1.9P		103.1%	-

市から 1 億円の事業費と貸館収入と助成金で事業を行っている。

大規模な興行作品は、地域のプロモーター、メディアと共催する。共催の条件として一定比率の座席、チケットを確保し販売することで、手数料と会員へのサービスとし、収入確保に努めている。

●ネットワーク

- ・劇場音楽堂等の連絡協議会などに参加し、各館の制作状況を把握し、ネットワーク構築に努めている。
- ・信州大学人文学部とは定期的に連携事業を行っている。2019 年度は 10 月にインドネシア舞踊のワークショップを行った。2020 年度は身体表現のワークショップを行う予定ではあったが、コロナ対策のため芸術館内のスタジオなどでは行わず、リモートでの開催となった。2021 年度は「エチオピアの伝統舞踊とアイルランドのコンテンポラリーダンスの現在」のワークショップをスタジオとリモートにて開催した。才教学園へも定期的に演劇のアウトリーチをおこなっている。いずれも単発的な取り組みであるので、今後は回数を増やし、連携を深めていく必要があると考えている。

●施設

開館後 15 年を経て、松本市から既存の管理費とは別途予算を計上し、平成 30 年度から令和二年度の二月まで主ホール・小ホールの長期的な大規模改修工事を実施した。また、舞台機構（年四回）、照明機器（年三回）、音響機器（年二回）の定期メンテナンスも実施している。